

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成25年4月～6月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成25年7月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 25 年 4 月～6 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、利府松島、加美、遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 148 企業

2. 調査対象期間

平成 25 年 4 月～6 月期を対象として、調査時点は平成 25 年 6 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	33
建 設 業	24
小 売 業	43
サービス業	48
合 計	148

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 25 年 4 月～6 月期)の調査において、産業全体の業況 D I は、前期より 5.5 ポイント改善し△33.6 (前期△39.1) となり、売上額(完成工事額) D I や採算 D I も、建設業を除く全ての産業において前期を上回ることなどから景況感に改善の兆しを感じられた。

宮城の建設業は震災後の復旧事業などにより高水準に推移してきたが、今回調査では売上額(完成工事額) D I や採算 D I がマイナス値となり、震災特需から、材料高騰や熟練労働者の不足といった経営環境の変化がうかがえた。

業況 D I を産業別にみると、製造業は△28.1 (前期△43.7) と 15.6 ポイント改善し、小売業は△40.6 (前期△55.9) と 15.3 ポイント改善し、サービス業△39.6 (前期△42.9) と 3.3 ポイント改善した。そして建設業のみが△16.6 (前期 4.1) と△20.7 ポイント悪化した。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額) D I は 24 年 4 月～6 月期をピークとして各産業いずれも下降傾向にあったが、製造業においては△30.2 (前期△39.4) で 9.2 ポイント改善、小売業は△46.6 (前期△65.0) 18.4 ポイント改善、サービス業は△37.5 (前期△40.8) で 3.3 ポイント改善と建設業を除く産業が改善したが。建設業のみは△20.9 (前期 8.4) で△29.3 ポイント悪化した。

② 採算の状況

採算 D I についても、製造業において△42.5 (前期△45.4) 2.9 ポイント改善、小売業は△44.1 (前期△53.5) で 9.4 ポイント改善、サービス業は△42.6 (前期△44.9) となり 2.3 ポイント改善したが。建設業のみは△29.1 (前期 0.0) で△29.1 ポイント悪化した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、建設業は 29.2%で前期よりも実施比率を 16.7 ポイント伸ばし、小売業は 16.3%で 7.0 ポイント伸ばした。製造業は 18.2%で前期より実施比率を 3.0 ポイント減らし、サービス業は 8.3%で 3.9 ポイント減少させた。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

6月調査の日銀短観によると「円安の定着や米国といった海外経済の回復による輸出持ち直しで企業心理が好転し大企業の景況感が改善しプラス値となった」との発表があったが、今回調査において宮城の売上額（完成工事額）DIは、いずれの産業もマイナス値であるものの建設業を除き改善傾向となり回復の兆しを感じられた。

また、DI値も東北が最も大きく、次いで全国と続き、宮城が最も小さかったが、前年同月比は、比較対象月が震災特需の好況感が顕著に表れた時期となり、若干の反動的要素も考えられ、宮城の景況感は、被災県として全国、東北と若干性格が異なる可能性もうかがえた。

表一1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・DI）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 31.7	△ 21.3	△ 34.0	△ 20.6	△ 39.4	△ 30.2
建 設 業	△ 13.5	△ 3.5	5.3	1.4	8.4	△ 20.9
小 売 業	△ 45.2	△ 33.7	△ 49.1	△ 39.1	△ 65.0	△ 46.6
サービス業	△ 32.3	△ 22.7	△ 30.5	△ 20.5	△ 40.8	△ 37.5

② 採 算

売上額DIは小売業を除く全ての産業で東北が全国を上回り、宮城がそれを下回る形となったが、採算DIにおいては建設業のみ東北が全国を上回り、製造業、小売業、サービス業は全国が東北を上回った。そして宮城は全ての産業で全国、東北を下回るのと同様であった。建設業への震災特需も新たな段階へ展開したようである。

表一2 採算の状況（前年同期比・DI）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 34.3	△ 29.0	△ 35.8	△ 32.5	△ 45.4	△ 42.5
建 設 業	△ 24.9	△ 18.3	△ 17.7	△ 11.5	0.0	△ 29.1
小 売 業	△ 44.0	△ 34.2	△ 45.2	△ 39.2	△ 53.5	△ 44.1
サービス業	△ 34.1	△ 27.1	△ 35.7	△ 28.3	△ 44.9	△ 42.6

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額（完成工事額）来期見通しD I（25年7月～9月期）については製造業 5.9 ポイント、小売業 3.7 ポイント、サービス業 10.4 ポイントの改善が見込まれ、建設業は 0.9 ポイントの悪化となった。建設業は今期において見通し（△8.4）に対し実績（△20.9）となり 12.5 ポイントの乖離が生じており経営環境の変化がうかがえた。

採算来期見通しD Iについては製造業が 9.2 ポイントの改善、小売業 8.4 ポイントの改善となり、サービス業は 9.6 ポイントの悪化になり、建設業は同率となった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上額（完成工事額）来期見通しD Iにおいて、全国は建設業、小売業において若干悪化し、製造業、サービス業は明るさが見え改善の見通しとなり、宮城は建設業の悪化が見通されたが、他の産業は好転が予想された。採算来期見通しD Iにおいては、全国はすべての産業が改善の見通しとなり、宮城はサービス業のみ悪化すると見通された。

表－3 売上額（完成工事額）の状況

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来期見通し	今 期	来期見通し
製 造 業	△ 21.3	△ 15.2	△ 30.2	△ 24.3
建 設 業	△ 3.5	△ 3.7	△ 20.9	△ 21.8
小 売 業	△ 33.7	△ 34.5	△ 46.6	△ 42.9
サービス業	△ 22.7	△ 20.7	△ 37.5	△ 27.1

表－4 採算の状況

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来期見通し	今 期	来期見通し
製 造 業	△ 29.0	△ 23.9	△ 42.5	△ 33.3
建 設 業	△ 18.3	△ 16.8	△ 29.1	△ 29.1
小 売 業	△ 34.2	△ 31.3	△ 44.1	△ 35.7
サービス業	△ 27.1	△ 24.3	△ 42.6	△ 52.2

2. 県下産業別の景況

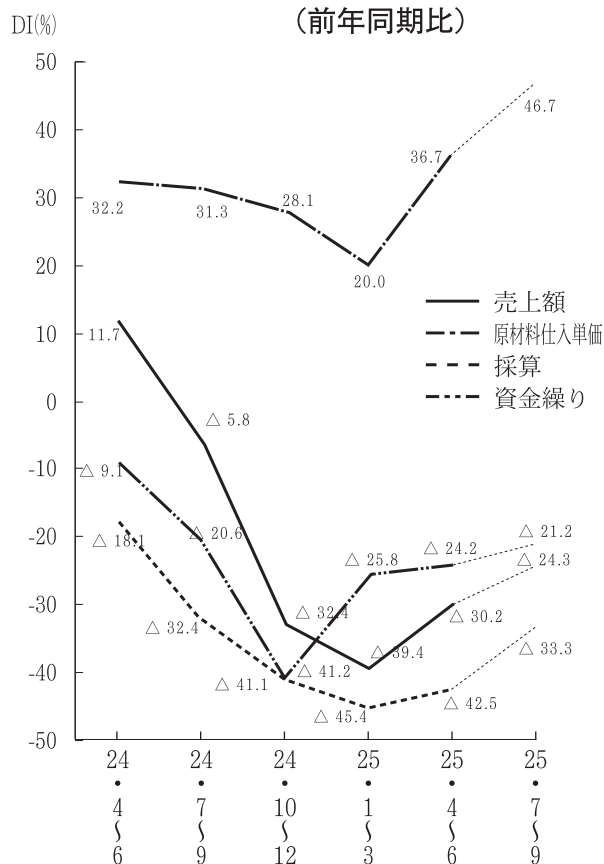
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△30.2（前期△39.4）となり9.2ポイント改善し、採算D Iも今期△42.5（前期△45.4）で2.9ポイント改善し、資金繰りD Iは今期△24.2（前期△25.8）で1.6ポイント改善した。

原材料仕入単価は36.7（前期20.0）と16.7ポイント悪化し、原材料の高騰が続いている。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



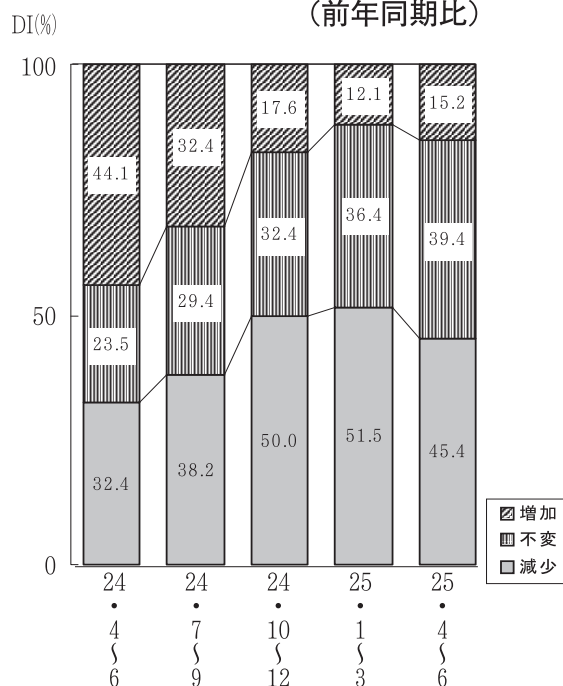
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「上昇・好転」と回答した企業は、全体の15.2%（前期12.1%）と3.1ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は45.4%（前期51.5%）と6.1ポイント減少した。

結果として売上(加工)額D Iは△30.2（前期△39.4）となり前期比9.2ポイント改善した。

図1-2 売上(加工)額の状況
(前年同期比)

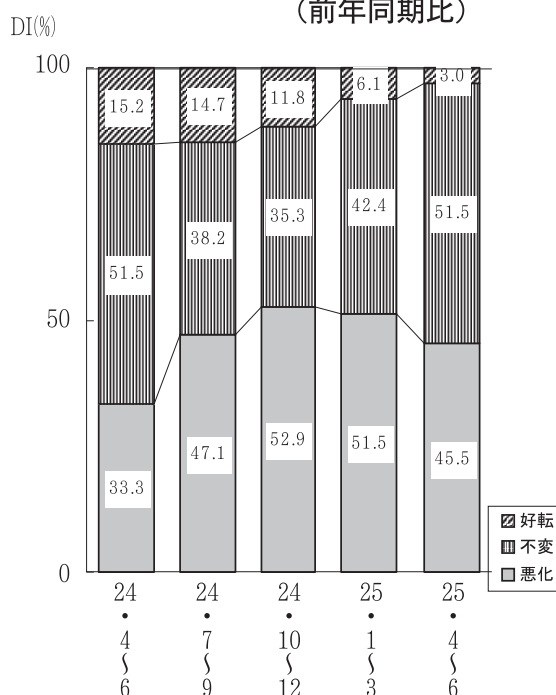


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の3.0%(前期 6.1%)で3.1ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は45.5%(前期 51.5%)で6.0ポイント減少した。

その結果、採算DIは△42.5(前期△45.4)となり前期比2.9ポイント改善した。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



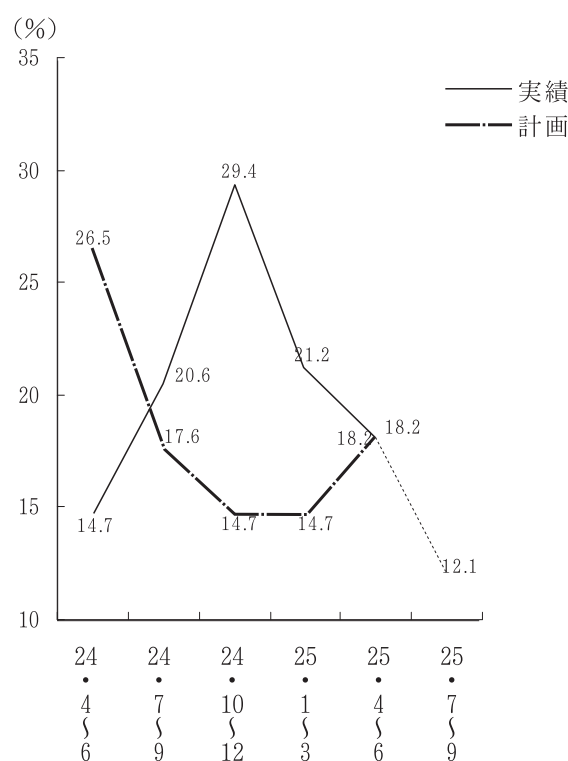
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の18.2%(前期 21.2%)で3.0ポイント減少した。

その設備内容は土地、生産設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の12.1%で、その設備内容は工場建物、生産設備、OA機器、その他となっている。

図1-4 設備投資の状況

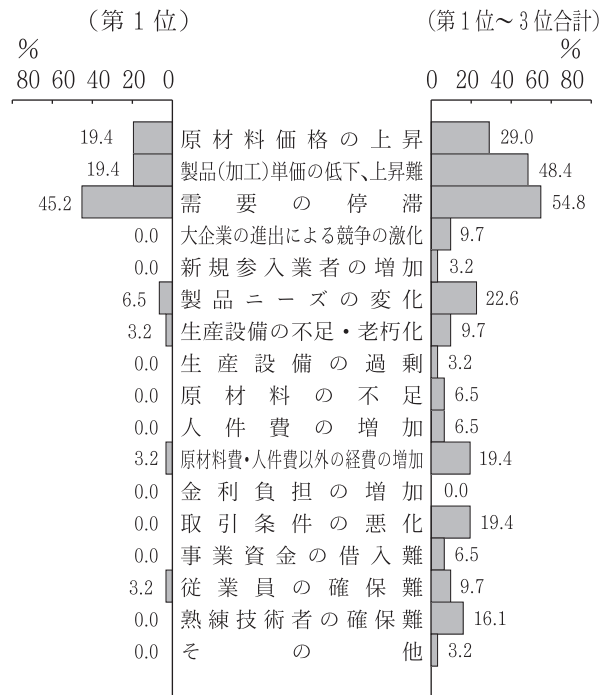


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」(45.2%)、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」、「原材料価格の上昇」が19.4%と同率で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(54.8%(複数回答以下同じ))「製品(加工)単価の低下、上昇難」(48.4%)、次いで「原材料価格の上昇」(29.0%)、そして「製品ニーズの変化」(22.6%)で続いた。

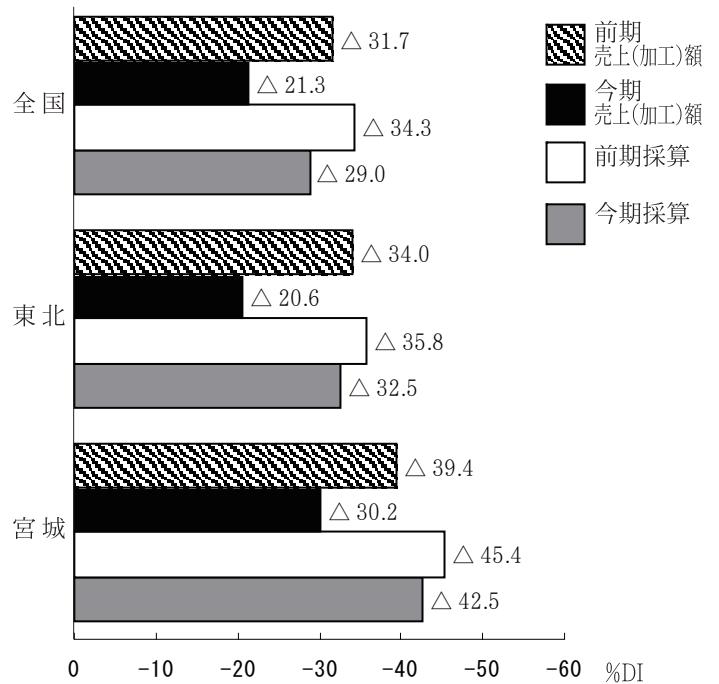
図1-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上(加工)額DI及び採算については、全国・東北の改善に比較し宮城の回復力は勢いが弱かった。本県回答事業者からは「円安定着は輸出企業の収益改善になっているが、設備投資にはまだ慎重なのか、本格的な回復にはまだまだ時間が必要なようだ。耐えるしかない」(金属プレス製造業)。「売上は減少の一途、それでも前を見据えて原料の確保に努める。これが収益改善に繋がればとの思いです」(水産食品製造業)。との意見が寄せられた。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較



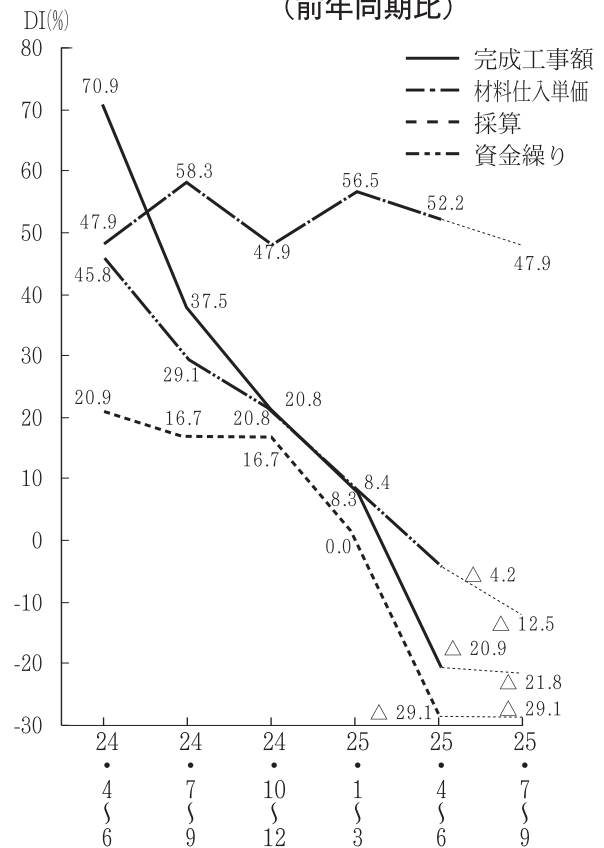
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは△20.9（前期8.4）と29.3ポイント悪化し、採算D Iも△29.1（前期0.0）で29.1ポイント悪化、資金繰りD Iも△4.2（前期8.3）と12.5ポイント悪化した。

懸念されている材料仕入単価D Iは52.2（前期56.5）で4.3ポイント改善したものの、他の全ての項目が悪化しており、復興需要による好況感は先行き不透明感が出始めている。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



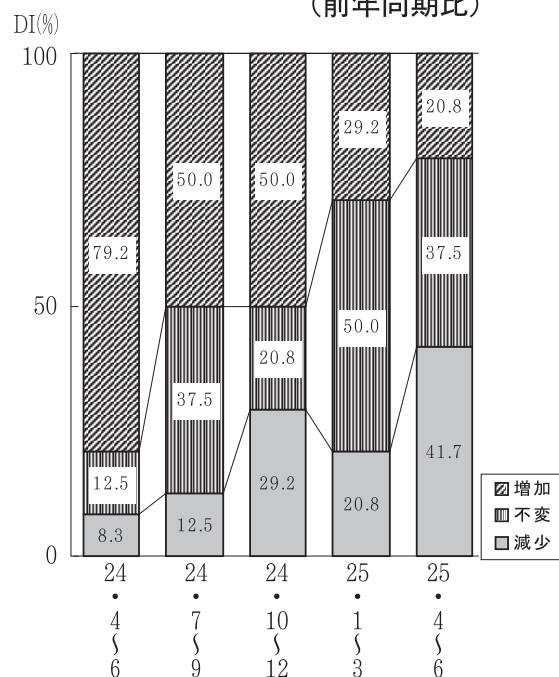
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の20.8%（前期29.2%）で8.4ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は41.7%（前期20.8%）と20.9ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△20.9（前期8.4）と29.3ポイント悪化した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

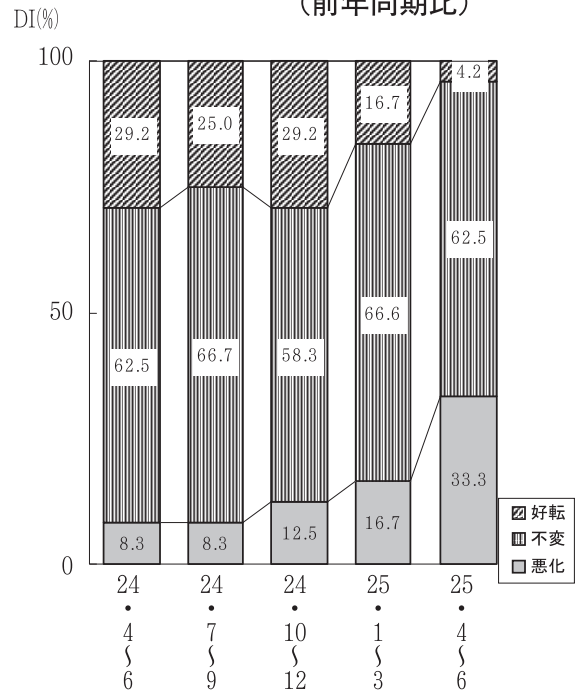


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の4.2%（前期16.7%）であり12.5ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は全体の33.3%（前期16.7%）で16.6ポイント増加した。

その結果、採算DIは△29.1（前期0.0）と29.1ポイント悪化した。

図2-3 採算の状況
(前年同期比)



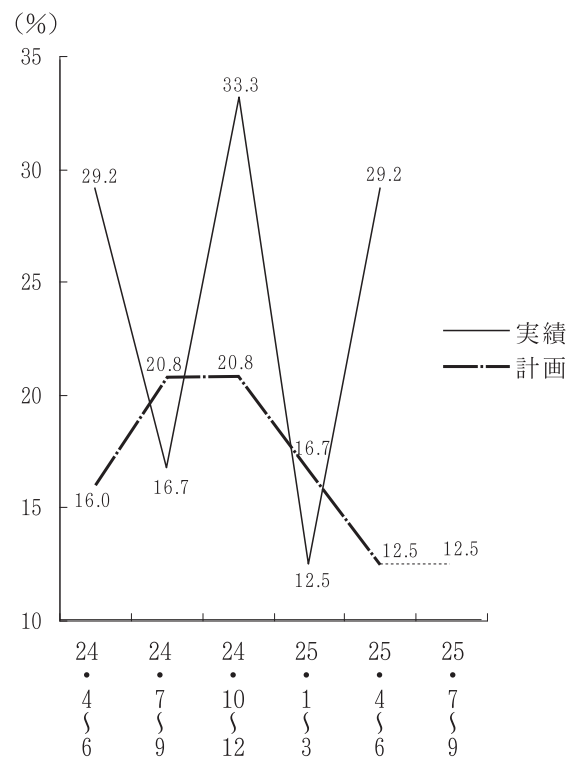
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の29.2%（前期12.5%）で16.7ポイント増加した。

その設備内容は土地、建物、建設機械、車両・運搬具、OA機器、福利厚生施設であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の12.5%で、その設備内容は土地、建物、建設機械、車両・運搬具、OA機器となっている。

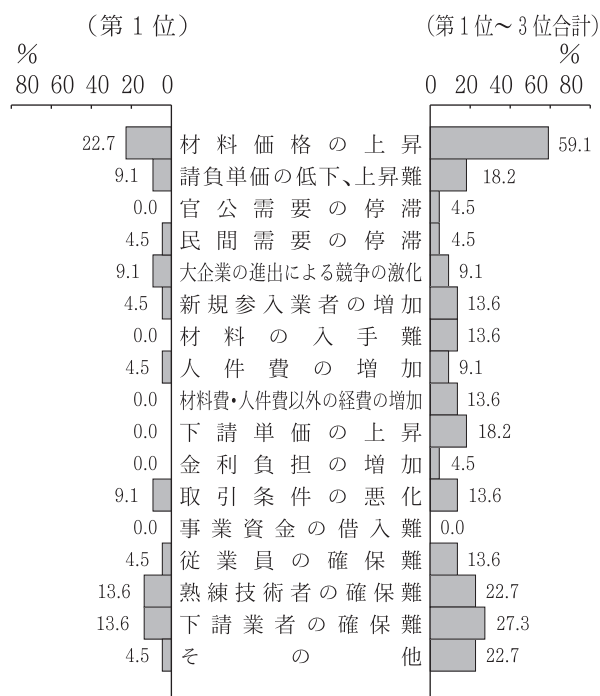
図2-4 設備投資の状況



(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料価格の上昇」(22.7%)、次いで「下請業者の確保難」と「熟練技術者の確保難」が同率の13.6%と続いた。重要度第1位から第3位合計では、「材料価格の上昇」(59.1%)、「下請業者の確保難」(27.3%)、「熟練技術者の確保難」と「その他」が22.7%と同率で続いた。

図2-5 経営上の問題点

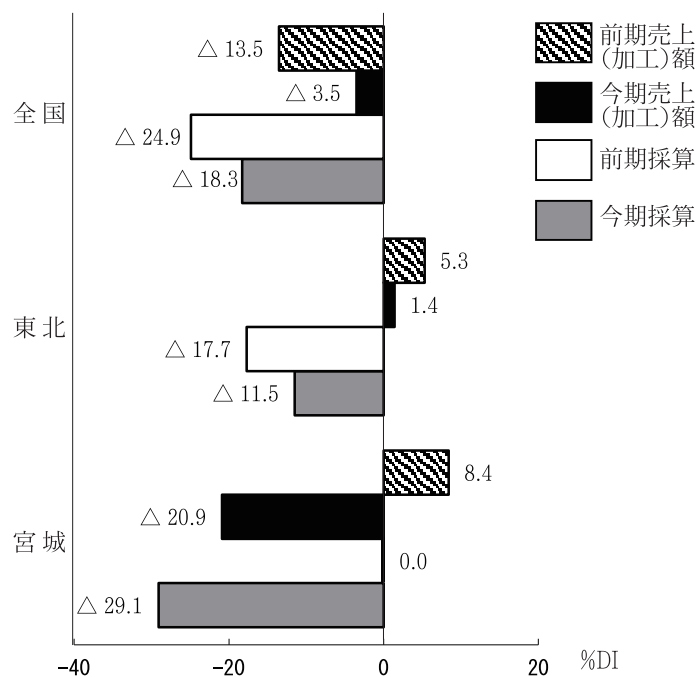


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

宮城は震災後の需要ピーク時との前年対比となるため、震災特需の反動減の要素も考慮しなければならぬが、今回調査においては全国、東北ブロックよりも劣位におかれた。

本県回答事業所からは「震災特需といわれているが、受注も落ち着いてきており、人件費増と原材料仕入単価の上昇が心配である」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



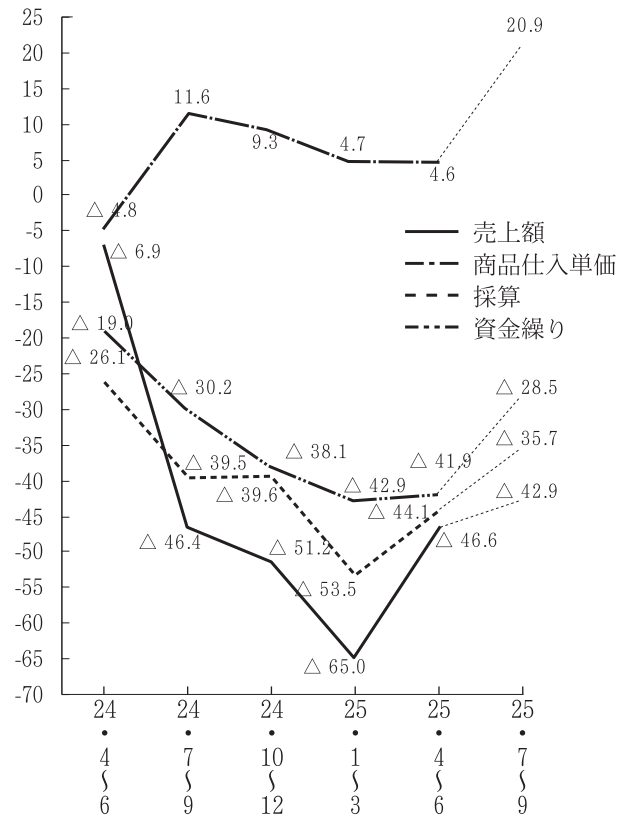
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額DIは△46.6（前期△65.0）と18.4ポイント改善し、採算DIも△44.1（前期△53.5）で9.4ポイント、資金繰りDIは△41.9（前期△42.9）と1.0ポイント改善した。

商品仕入単価DIは4.6（前期4.7）となり0.1ポイントとわずかながら好転した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



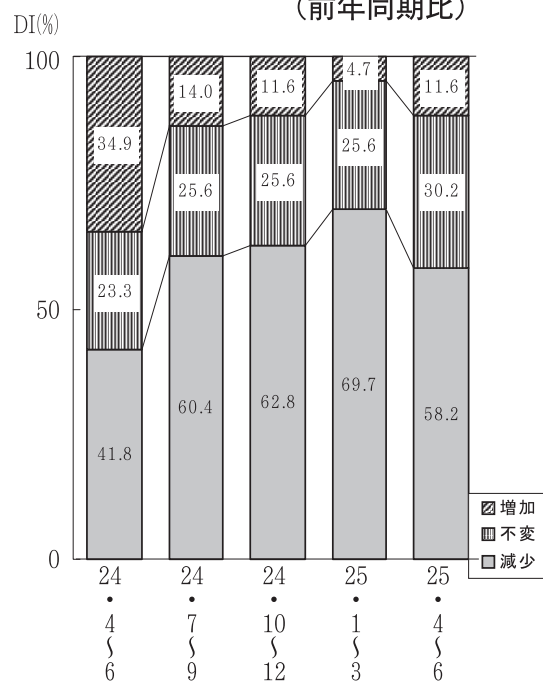
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の11.6%（前期4.7%）と6.9ポイント増加し、「減少・悪化」の回答は全体の58.2%（前期69.7%）と11.5ポイント減少した。

その結果、売上額DIは△46.6（前期△65.0）と前期比18.4ポイント改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

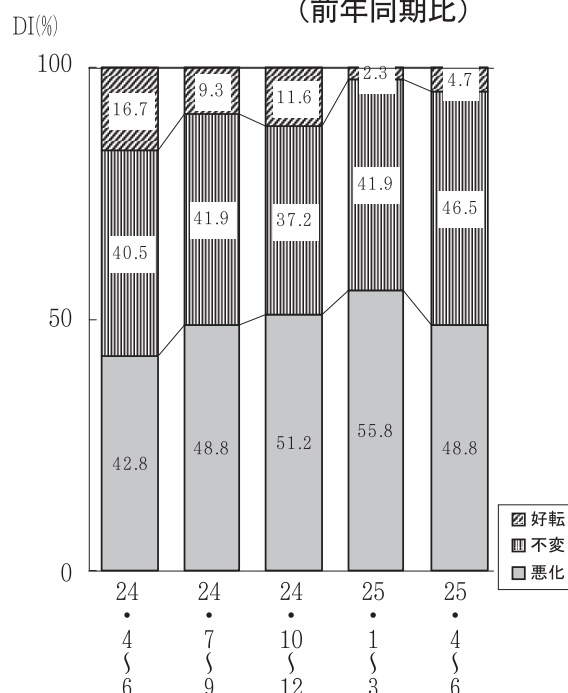


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の4.7%（前期2.3%）と2.4ポイント増加し、「悪化・低下」の回答も全体の48.8%（前期55.8%）で7.0ポイント減少した。

その結果、採算DIは、△44.1（前期△53.5）となり、前期比9.4ポイント改善した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



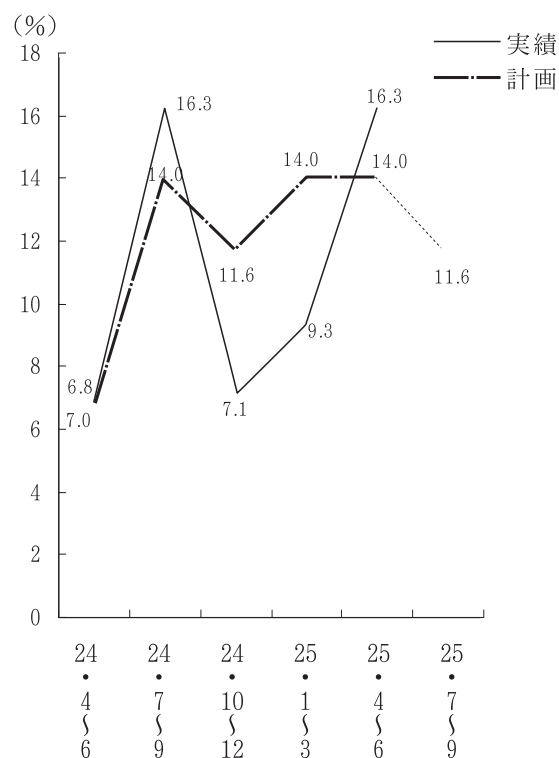
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の16.3%（前期9.3%）で、7.0ポイント増加した。

その設備内容は店舗、販売設備、車両・運搬具、付帯施設、その他であった。

来期に設備計画している企業は11.6%で、その内容は販売設備、付帯施設、OA機器を想定している。

図3-4 設備投資の状況

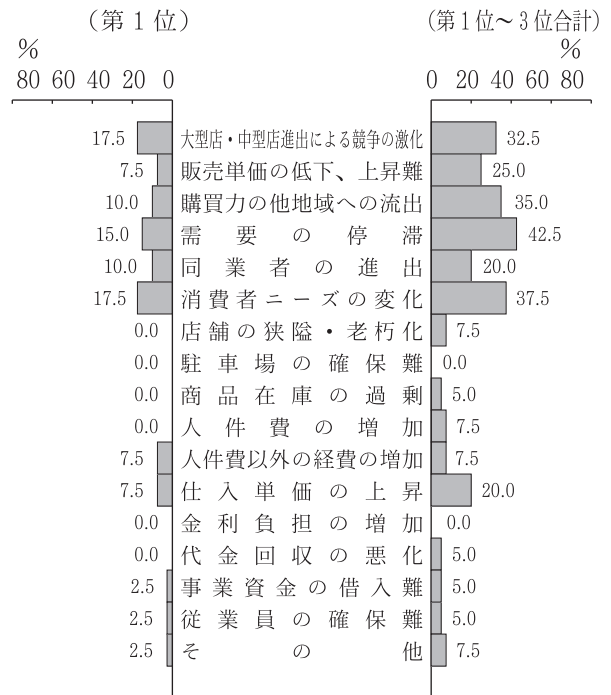


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「消費者ニーズの変化」と「大型店・中型店の進出による競争の激化」が17.5%と同率となり、次いで「需要の停滞」(15.0%)、「購買力の他地域への流出」と「同業者の進出」が10.0%と同率で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(42.5%(複数回答以下同じ))次いで「消費者ニーズの変化」(37.5%)次いで「購買力の他地域への流出」(35.0%)、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(32.5%)と続いた。

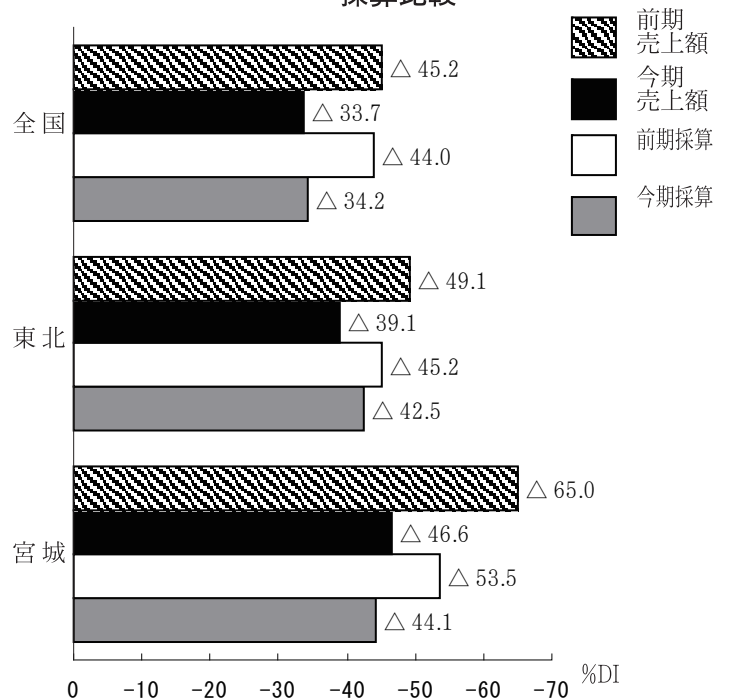
図3-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

小売業は消費マインド改善の兆しはあるものの小売店の経営環境は依然として厳しく、他の産業より厳しい数値となっている。特に全国、東北と比較し宮城は一段と厳しい結果となった。本県回答事業所から「震災時の在庫被害が大きく、新たな、安定した商品供給体制の確立及び運転資金の確保に苦しんでいる」。(陶器店)、「商業を取り巻く環境は年々厳しくなっている。長年続くデフレの影響により販売単価が低下し、単価をアップさせるのは困難な状況にある」。(靴小売業)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較

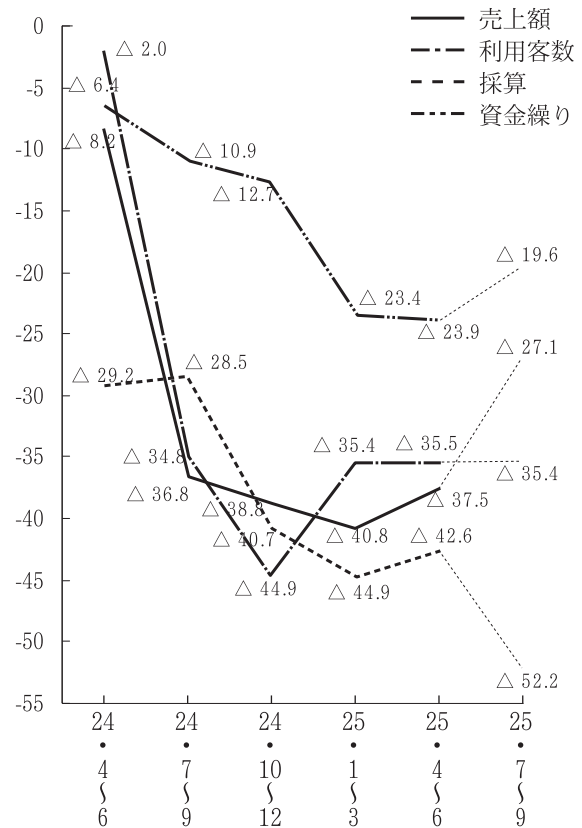


(4) サービス業の動向

①主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iが△37.5（前期△40.8）で3.3ポイント改善し、採算D Iも△42.6（前期△44.9）と2.3ポイント改善したが、利用客数D Iは△35.5（前期△35.4）で0.1ポイント悪化し、資金繰りD Iは△23.9（前期△23.4）と0.5ポイント悪化した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



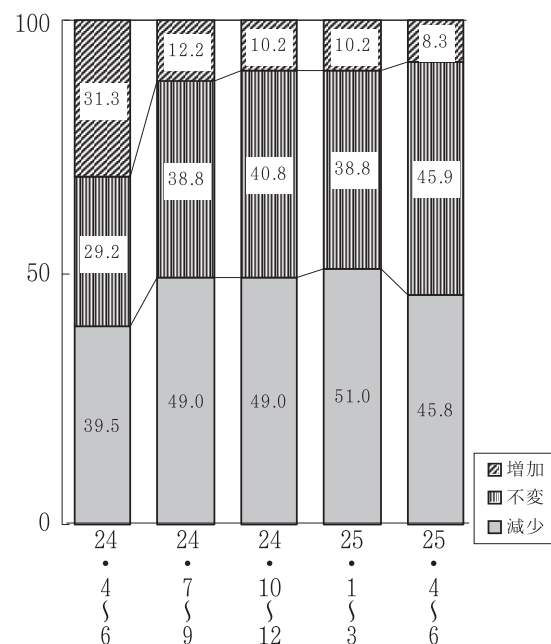
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の8.3%（前期10.2%）で、1.9ポイント減少した。「減少・悪化」の回答は45.8%（前期51.0%）で5.2ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは△37.5%（前期△40.8%）で前期比3.3ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

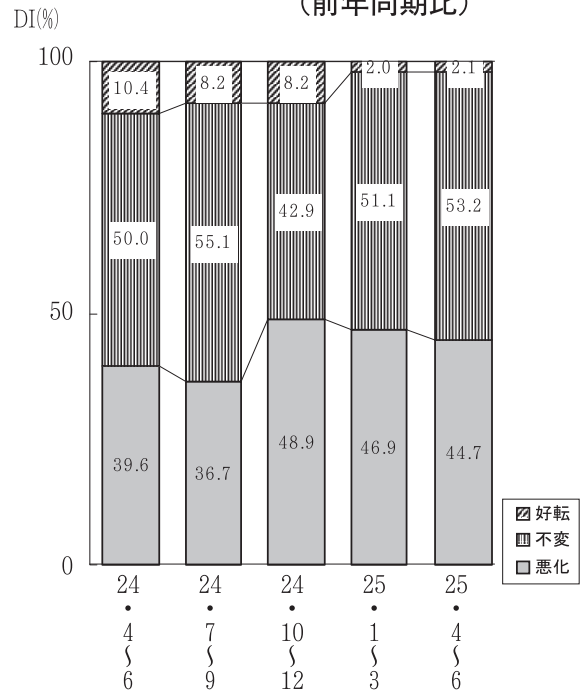


(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は全体の2.1%（前期2.0%）で前期比0.1ポイント増加した。「低下・悪化」と回答した企業は44.7%（前期46.9%）と2.2ポイント減少した。

その結果、採算DIは△42.6（前期△44.9）となり、前期比2.3ポイント改善した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



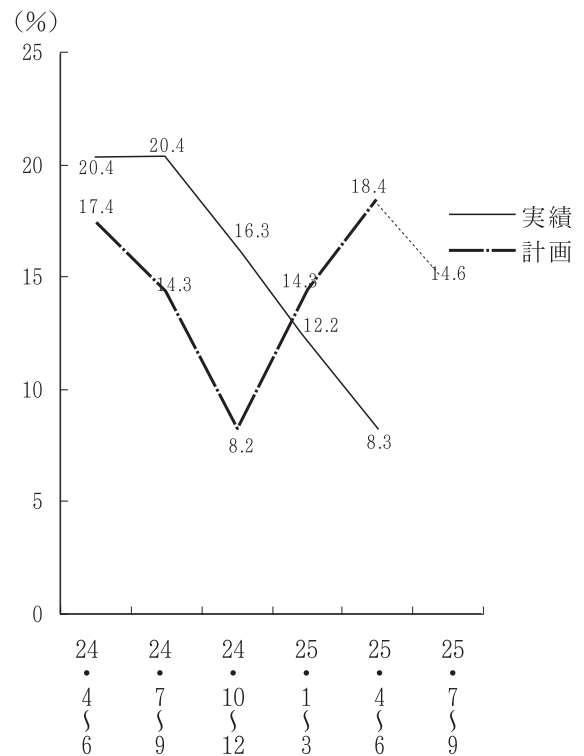
(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の8.3%（前期12.2%）で3.9ポイント減少した。

その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、14.6%であり、その内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他となっている。

図4-4 設備投資の状況

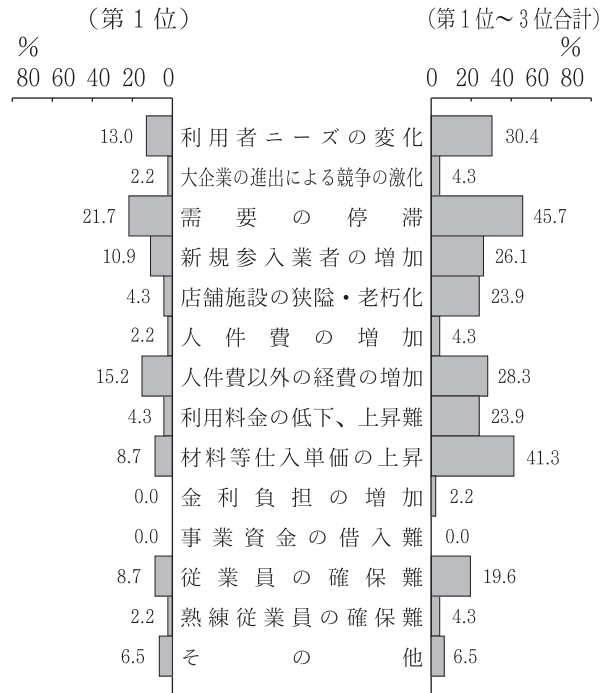


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(21.7%)
次いで「人件費以外の経費の増加」(15.2%)、
「利用者ニーズの変化」(13.0%)、「新規参
入業者の増加」(10.9%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要
の停滞」(45.7% (複数回答以下同じ))「材
料等仕入単価の上昇」(41.3%)、「利用者ニ
ーズの変化」(30.4%)次いで「人件費以外
の経費の増加」(28.3%)、「新規参入業者の
増加」(26.1%)と続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

サービス業も、他の産業同様全国、東北と比較し宮城は一段と厳しい結果となった。本県回答事業所からは「原油高により材料仕入単価が上昇しており、売上が伸びても収益に反映されない」(理容業)、「消費税増税となった場合、価格転嫁と客離れの関連が心配である。」(理容店)等のコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較

